あとがき

一昨年の早い頃、JCPRG の何人かの間で、「2014 年度は、核データ（NRDF）が始まってから 40 周年になる」ということが口の端にのぼりはじめた。そのうち、「それを記念して研究会か何かを開くのか」、「ワークショップをもつのか」、「お祝いの会などをするのか」が話題になり、そして「これまでの歴史を整理してみよう」、「散逸している資料を集めてみよう」などがだんだん意識されるようになり、最後に「40 周年史を刊行しよう」ということになり、一昨年の 11 月、JCPRG 内に編集委員会を設置することになった。

編集委員を一応決めて、何回も編集会議を開いて、40 周年史の構成と内容を具体化して行った。NRDF の研究を始められた田中先生からはコメントや再録をお願い出来そうであった。NRDF 草創期にアイデアを出され、NRDF の具体化に貢献された諸先生方についても原稿が得られる目処を立てて行った。問題は、NRDF 核データ（JCPRG）40 周年史の編纂の意図を説明し、設定したテーマに従って実際に原稿を書いて頂けるかどうかであった。40 周年史の発刊を 2014 年 8 月に想定して編集作業を開始したが、これ以降は、「時間の進行と作業日程の絶えざる遅れ」との熾烈な戦いとなった。

40 周年史刊行の目的は、原稿依頼者に送付した「ご挨拶とお願い」にまとめられているので、ここで引用しておきたい：

この節目の年度を迎えて、JCPRG は「JCPRG40 周年史」を編纂することにいたしました。JCPRG ではこれまでの諸活動について、その膨大な活動の全容を歴史的資料として整理し、また様々な局面で、主体的に責任を担われた方々、そして、多大なご協力を惜しまれなかった皆様方に直接ご執筆を頂き、それぞれの貴重な歴史の一コマ一コマに再び光をあてて頂くと同時に、現時点でそれらの作業の思い出や感想を語っていただき、JCPRG40 年の現在的評価を行いつつ、今後の JCPRG の果たすべき役割の方向性や責任を明らかにして行こうと考えております。

ここで、40 周年史編集にあたって、特に留意した点について、触れておきたい。

1. NRDF 開発の誕生の経緯を明らかにする。この点については、当時文部省の特定研究に直接かかわられた田中先生はじめ、当初携わられた先生方に原稿をお願いすると同時に、特定研究の報告書等の資料を活用する。
2. 初期の NRDF システム開発に従事された冨樫雅文氏に、NRDF システム開発での基本構想は何であったか、データベース作成にあたって原子核研究者の要望をどのようにシステム開発構想と調和させたのか、など NRDF システム誕生に関する開発者自身の手になる原稿をどうしても頂きたかった。ある意味では、この「40 周年史の核心部分」の一つと言っても良い。
3. NRDF の採録作業やデータ入力エディタ・検索システムなどの開発では、その時々の大学院生、ポスドク研究員等、多くの若い人材が、NRDF システム、NRDF データベース構築活動についてはじめて知りその活動に参加し、そして、与えられた課題の中で、考え、工夫し、提案し、実践し、それぞれの仕方で、NRDF、或は、JCPRG に重要な足跡と結果を残し去って行った。彼らの仕事の中には、JCPRG のシステムとして現在も活用されているもの、さらには、JCPRG にとどまらず世界の核データ構築活動の中で「実質的な標準」とさえなっているシステムも存在している。そのような方々が、当時、どのように JCPRG と係ったのか、そして現在、NRDF をどのように捉え、今後の JCPRG に何を期待しているのかについて、是非書いて頂きたかった。
4. JCPRG の諸活動が現在のやり方に定着してきた経緯を可能な限り明らかにしておきたい。

NRDF の活動は、それぞれの時点でのデータベース構築過程における問題点を解決するための重要な協議や判断や決定をその都度積み重ねて来た筈である。そしてそのような歴史の再検証は今後の JCPRG 活動の発展に貴重なヒントと教材とを提供していると考えられる。

5. JCPRG40 年の活動の記録として、資料類、写真を収集し、あらためて、JCPRG の活動に携わった方々の名簿の作成、そして JCPRG 活動の年表の編集を現在の編集委員会の総力を結集して完成させる。

「JCPRG40 周年史」の作成に当たり、「編集の基調」として編集委員会で確認し合ったのは、「40 周年史」を単に思い出話を集めたものにせず、今後の核データ活動を一層発展させるためのものにしようということであった。「JCPRG40 周年史」が「所期の目的を達成出来た」かどうかは皆様のご判断に委ねたい。

これまで JCPRG の活動に参加された方々は、本誌の資料に載っているだけでも 154 名に達し、この度、本誌に寄稿して下さった方々は 68 名であった。お忙しいところ本誌に原稿を寄せられた皆様に対して編集委員会として心からのお礼を申し上げる。

最後に、編集委員会の委員は合川正幸(編集委員長)、江幡修一郎、吉田ひとみ、芦澤貴子、片山敏之、能登宏、加藤幾芳である。資料収集には栗原希美の参加を得た。今井匠太郎には度々議論に加わって頂いた。記して感謝の意を表したい。

「JCPRG40 周年史」編集委員会